松浦　正博（埼玉）

辛（しん）（2014 年）F60

私の制作姿勢としては、生活・夢・思・苦しみ・愛・生きる意味といった、さまざまな人間の営みなどを自由に画面にこめるようにしています。

とりわけ人物に対しての執着があり、それぞれの肢体の中に多くの示唆するものを感じます。常日頃より、人物の状態を眼に留め、いたずらがきのように、自由にのびのびと、いろいろな思いをこめて描きとめておきます。体・背・足・指などに不思議な存在感があります。

作品制作にあたっては、画面に自由に絵具を塗り、削り、線を入れ画面と色を同時進行で、構図・遠近・深み・色彩の妙など造りだしていきます。色は複雑に重なりあって、不思議な美しさを醸し出してくれますが、なかなか思ったようにはいきません。

観（かん）（2015 年）F100

『辛（しん）』

震災・自然災害・さまざまないさかい……人々は不安や哀しみを乗り越えて生きていきます。そんな作品を描きたいと思いました。

題名を辛（しん）としたのはそのためです。

『観（かん）』

まわりをけずりとり人物だけにしぼり、親と子の視線が不思議な力となり、手足の動きが大きく広がりをみせる。体の線を画面いっぱいに描き簡素な構成にしてみました。

第 10 回蒼騎展（1970 年）会員推挙
前蒼騎会代表　審査委員　文部大臣奨励賞